

道内にもあったナガミノツルケマン

札幌市 本多 丘人

はじめに

ナガミノツルケマン *Corydalis raddeana* Regel はケシ科キケマン属の植物で、環境省レッドリスト (2017 年) では NT (準絶滅危惧種) に指定されています。一方、よく似た植物で北海道に産するものは別種とされ、チドリケマン *Corydalis kushiroensis* Fukuhara という名称がつけられています。ナガミノツルケマンとチドリケマンとは花の大きさや形態が明確に異なるため区別できるのですが、花以外はそっくりで、花がなければ肉眼的な判別はできないと言われています。本稿はそのナガミノツルケマンが道内にも生育しているという話です。

2015 年秋 初めての出会い

2015 年 9 月 21 日、いつもお世話になっている北方山草会の岩佐会員、長尾会員、松本会員、菊池会員とともに渡島半島を訪れました。2 ヶ月ほど前に「北海道のシダ入門図鑑」(梅沢会員著) が出版されて「にわかシダ愛好家」となったわれわれの主な目的はイワガネソウとヒメノキシノブです。あらかじめ五十嵐会員から詳細なイワガネソウの産地情報をいただき、ついでに外来植物のトキワアワダチソウや道南では珍しいエゾキンポウゲなども確認するよう勧められました。渡島半島の日本海側を南下し、函館付近で 1 泊、太平洋側を北上して札幌に戻る 1 泊 2 日の強行日程とな

りました。まず訪れた厚沢部町ではヒメノキシノブを見ることができました。手の届かない樹上で詳細は観察できなかったものの、ちゃんとソーラスも確認でき、目的の半分ぐらいは達成した感じです。松前にあるというイワガネソウは残念でした。結構時間をかけて皆で探したのに見つけれなかったのです。松前町江良のトキワアワダチソウは潮風に揺られて咲いていました。

明けて 9 月 22 日、平成の市町村合併によって広がった函館市の東部が舞台です。旧恵山町でセンブリ、ママコナ、ヤクシソウ、コハマギクなどを見てほぼ満足して札幌に戻る途中、前にも何度か訪れたことのある林道の入口にさしかかりました。いわゆる「お気に入り」の場所があると、同好の方々にはおわかりでしょうが、なぜか寄り道をしてみたくなるものです。その林道に入って間もなく、同行の会員が黄色い花を見つけました。見ると、チドリケマンのようです。少し前(2015 年 9 月 5 日) に様似町でチドリケマンを見ていたので、なんとなくチドリケマンとはちょっと違うなどは思いながらも、とりあえず写真を数枚撮り、その日はそれで終わってしまいました。

札幌に戻ってから写真を見ると、やはりチドリケマンとは雰囲気が違うようです(図 1)。チドリケマンは距が上方に反り返るのが特徴のひとつですが、写真では距が反り返っている花はなく、下の方に湾曲し